

科目名 周手術期看護学実習 時間割表記名 周手術期看護学実習	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90時間（11日間）	講義担当者 濱崎友実
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 周術期にある患者を理解し、手術による身体侵襲を最小限にし、健康の回復促進と自立に向けた看護を実践する能力を習得する。 【実習目標】 1. 周手術期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 周手術期にある患者に起こり得る問題を予測した合併症予防、生活機能の回復と適応への援助ができる。 3. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間の連携について理解できる。 4. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
授業の流れ 本実習では、周手術期にある患者を受け持ち、看護過程の展開を通して、成人期及び老年期の発達段階の特徴を踏まえた身体的・精神的・社会的な援助の実践を学ぶ。 周手術期にある患者は、手術に伴う侵襲によって、健康状態の破綻をきたした状態であり、迅速で集中的に対応し生命を守る必要がある。また、患者の安全・安楽を保ち、合併症の予防や苦痛緩和に向けた援助を必要とする。そのため、麻酔や手術が患者に及ぼす影響を理解し、術後の回復促進と自立の促進に向けた看護を学ぶ。 また、患者・家族が生活者であることを理解し、日常生活を見据えた看護を術前より考え、支援する視点を常に持ちながら、日々の看護実践や多職種連携と看護師の役割について学ぶ。 以上の内容について、周手術期にある患者を受け持ち看護過程の展開を次のいずれかの診療科病棟（腎・泌尿器科病棟、外科病棟、整形外科病棟）で実践する。また、手術室見学実習では受持ち患者の手術に同行し、手術における生体侵襲・麻酔侵襲や手術室の安全対策、病棟・手術室間の連携について学ぶ。さらに実習期間内の学内実習日では、各科の特徴を踏まえた学習を共有し学びを深める。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト		

- ①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 - ②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 - ③系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院
- 他 既習のテキストを活用する